

関西支部猛虎会、甲子園ヤクルト戦観戦記（9／16）

24年5月の巨人戦に続き、混戦続くセリーグ2位の阪神と最下位のヤクルト戦のデーゲームを会員4名（木村(勤)、富田、葛野、山口）で観戦した。

最高気温34.2℃の残暑の中、ライト側阪神応援団席は満席で試合前から熱気に包まれた。始球式には元NHKアナで現在はフリーの有働由美子さんが登場、出身は神戸女学院大で熱烈な阪神ファン、甲子園開場100年目の記念年、背番号は100番に。山なりながらもノーバウンドで捕手・坂本のミットに見事に収めた。今回が2度目の始球式登場とは羨ましい限りである。

先発は阪神が大竹、ヤクルトはベテラン小川。9月に入って好調な阪神は9勝3敗と星を伸ばし、広島を逆転し2位に浮上、巨人とは2ゲーム差ながら十分射程距離に入っているのだ。投手陣では高橋の復活が大きく、4戦4勝と救世主になりそうな気配も。打撃陣では近本、森下、佐藤輝らの活躍が目立つ。

観客席は陽射しが強かったが、2時40分を過ぎると日陰に入り応援にも更に熱が入る。6回裏にチャンスが生まれる。森下、大山、佐藤輝の3連打で無死満塁と小川を攻め立て前川のセンターへの犠牲フライで先取点が入り、更にパスボールで2点目が入った。前川は1回表の守備で外野フェンス間近に飛んだのを見事キャッチ、逸していれば3点献上の危機を救っていた。攻守にわたる活躍でこの日一番のヒーローとなった。

一方先発の大竹は緩急をつけた技の光る投球術で、相手主軸には上手く敬遠気味の四球も与えて6回を無失点に抑えた。スローボールを効果的に使った投球術も披露した。7回以降は桐敷、ゲラ、岩崎投入、見事完封劇を演出した。

巨人も勝利したため、ゲーム差は2と縮まらなかったが、22日、23日は甲子園での直接対決があり、ペナントレースに決着が着きそうだ。

ゲーム終了後、今期限りでユニフォームを脱ぐヤクルト青木宣親選手が登場、ヤクルトファンに一礼、阪神ファンからも大きな拍手歓声が届けられた。42,603人を呑み込んだ甲子園球場からの帰路は大半が阪神電車利用となるが、大阪梅田方面には「臨時特急」が数本走り混雑を上手く捌いていた。これも甲子園名物の一つであろう。



最高気温 34.2°Cの残暑の中、ライト側阪神応援団席は満席で試合前から熱気に包まれた。



観客席は陽射しが強かったが、2時40分を過ぎると日陰に入り応援にも更に熱が入る。



一方先発の大竹は緩急をつけた技の光る投球術で、相手主軸には上手く敬遠気味の四球も与えて6回を無失点に抑えた。



22日、23日は甲子園での直接対決があり、ペナントレースに決着が着きそうだ。

以上 レポート山口 順